令和８年度



童心会の信条「やさしい保育園」

初代理事長が逝去し、早５か月が経過しました。
日々の仕事の中で、ふとした瞬間に初代理事長の言葉や姿を思い出すことがあります。生前、童心会が目指す保育について、よくこんなお話をされていました。

「私たちは、コミュニティづくりをしているんだよ。良い仲間集団をつくることが大事なんだよ！」
そして、子ども・保護者・保育者仲間・地域社会が協力することで、子どもを育てる素晴らしい環境ができる。それが「やさしい保育園」なのだよ。と、

童心会の信条である「やさしい保育園」。

それは、単に子どもに優しく接するということだけではありません。
・保育者仲間にやさしい
・子どもにやさしい
・子育て仲間にやさしい
・地域社会にやさしい
この四つのやさしさがつながり、互いを認め合い、支え合うことで、子どもたちを取り巻く豊かな環境が生まれます。
では、そのようなコミュニティをつくるために、私たちには何が必要なのでしょうか。

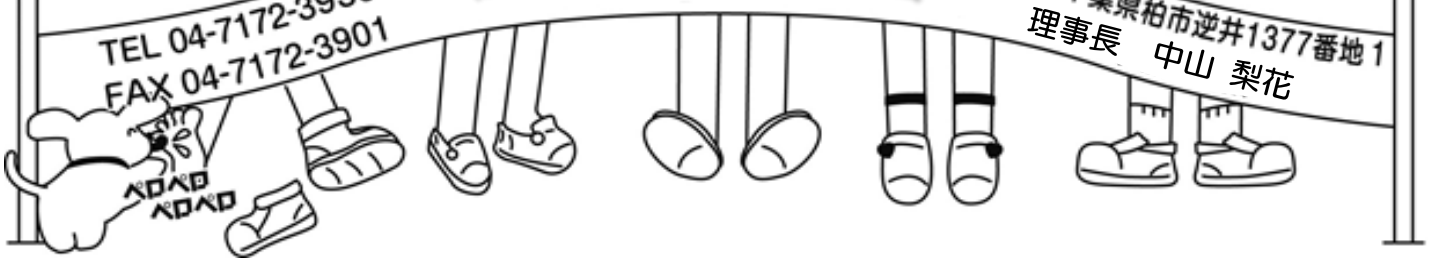


笑ったかず一番　だっこされたかず一番　やさしくされたかず一番
遊んだかず一番　でかけたかず一番　チャレンジしたかず一番



E-mail　doushinkai@doushinkai.jp　　URL　http://doushinkai.jp

社会福祉法人 童心会
〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地１
理事長　中山 梨花
TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901



大切にしている考え方の一つに「Serve & Return（サーブ＆リターン）」があります。
相手からの働きかけを受け止め、それに応えること。
子どもが何かを伝えようとしたとき、その表情やしぐさ、言葉に気づき、応答する。職員同士であれば、仲間の声に耳を傾け、気持ちを受け止め、応答する。

こうした一つひとつのやり取りが、人と人との信頼関係を育てていきます。

そして、もう一つ大切なのが「存在の認証」です。
また、人は誰でも「在る・要る・必要とされる」ことが大切なのだと話されていました。

自分がここに在ることを認めてもらえる。
自分が誰かにとって要る存在である。
そして、自分が必要とされていると感じられる。

それは、子どもにとっても、大人にとっても同じです。

子どもたちには、一人ひとりに大切な存在として関わること。保護者には、子育てを共にする仲間として向き合うこと。職員同士は、互いの存在や役割を認め合い、支え合うこと。そして、地域社会とのつながりを大切にすること。
こうした日々の積み重ねが、初代理事長の目指していた「良い仲間集団」につながっていくのだと思います。
私は、このように残された言葉を、単に思い出として大切にするだけではなく、これからの童心会の保育や職員同士の関わりの中で実践していくことが大切だと考えています。

文化とは、受け継ぐだけではなく、応答し、修正し、継承されていく生命体です。
童心会の文化も、私たち一人ひとりの行動によって、これからも育ち続けていきます。
「やさしい保育園」という信条のもと、子ども・保護者・保育者仲間・地域社会が互いを認め合い、必要とし合えるコミュニティを、みんなでつくっていきましょう。
初代理事長の子育て文化の創造への想いは留まることなく、童心会の保育の実践の中で、これからも生き続けていくのだと思います。

日めくりカレンダーより

●7 日『さんさんと朝陽をあびて セロトニン』

太陽の光を浴び、運動し、人と触れ合い、笑顔や挨拶、感謝の心を持つことが、心と身体の安定につながります。日々の生活習慣や人との関わりを大切にし、心身の健康を育みましょう。

●8 日『すすんでやるよ みんなのため 自分のためのお手伝い』

歩けるようになった子どもたちは、お手伝いを通して人の役に立つ喜びを知ります。みんなのために行動する経験が、自分への自信や自尊心を育み、自立する力につながります。

●9 日『せんせいの だきしめ言葉は オキシトシン』

子どもとの触れ合いや見守り、笑顔、挨拶、褒めること、励ますことなど、人を思いやる関わりが安心感や信頼関係を育みます。先生の温かな言葉や抱きしめる愛情が、子どもの心を豊かにします。

●10 日『そうだね！ いいね！ 認めあうこと、信じあうこと』

相手の気持ちや努力を認め、信じ合うことが、お互いの幸せにつながります。「そうだね！
いいね！」という共感の言葉を大切にし、認め合い、支え合う関係を築きましょう。

令和 8 年 11 月吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 梨花